

実態分析と改善に向けた 具体的な取組

武雄市 小学校(11校)

【武雄小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学 現 5 年	63.3 (1.02)			62.7 (0.96)			
H22 入学 現 6 年	75.1 (1.11)	70.3 (1.00)	65.1 (1.01)	58.1 (0.97)	76.9 (1.03)	44.8 (1.03)	58.7 (0.96)
H27 正答率の全国比		(1.00)	(1.00)		(1.02)	(1.00)	(0.97)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・基礎的・基本的な学習内容では、前学年の学習内容の定着がまだ不十分である。時間の経過に伴い、学習内容を忘れる傾向が強い。そのため、短期記憶から長期記憶へ学習内容が移行していないと思われる。
- ・活用問題において何を問われているのか、回答にあたりどんな条件で答えなければならないのか、資料同士の関連性はどこにあるのかなど、問題の性質を関連づけて読み解く力が弱い。
- ・家庭学習ノートを前年度から取り入れているので、家庭での学習時間が県平均に比べ高い。
- ・人前で自分の考えを発表することを恥ずかしがったりいやがったりしている児童が多い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 西部型授業の流れを常に実践し、めあてとまとめを確実にいき、児童がわかりやすい授業を行う。また、国語科の読みの観点による確実な読み取りや算数科における算数用語を使った説明など基礎・基本的な学習内容の定着を図る。
- 2 学力の2極化に対応するため、TTによる少人数指導で、児童の学習内容の理解を深める。
- 3 ICT機器を利活用し、視覚的にわかりやすい授業を構築する。また、国語科の読みの観点や算数用語等を授業中に児童に捉えさせたり、児童が積極的に話し合い活動に参加し、自分の考えを喜んで説明するような授業を構築する。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

全職員が関わり、以下の内容を実践する。

- 1 すくすくテスト、放課後の補充指導の時間や放課後学習会を活用し、基礎基本的な学習内容の定着を図る。
- 2 自己肯定感を高めるために授業や学校生活において、児童の良さを積極的に評価し、褒める。
- 3 家庭学習ノートを実施し、その日に学習した内容を整理してまとめる習慣を付けさせる。

【御船が丘小学校】

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学	68.3			66.2			
現5年	(1.10)			(1.02)			
H22 入学	71.5	73.1	72.0	60.2	74.9	46.5	65.5
現6年	(1.06)	(1.04)	(1.11)	(1.01)	(1.00)	(1.06)	(1.07)
H27 正答率の全国比		(1.04)	(1.10)		(1.00)	(1.03)	(1.08)

◎5年時は佐賀県学習状況調査，6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率，下段()は，県平均を1としての比較。

◎「H27 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

<生活習慣>

6年生児童で、朝食をとっていることについては、「食べている」「どちらかと言えば食べている」と答えた児童が94.4%で、「全く食べていない」と答えた児童が3.4%である。睡眠については、「寝る時刻が一定している」児童は83.1%、一定していない児童が15.8%いる。一方、「起きる時刻が一定している」児童は95.5%おり、ある程度規則正しい生活をしていると言える。また、5、6年生の児童で、平日(月から金)に、テレビ・ビデオ視聴を3時間以上している児童が35.2%(県32.9%)、ゲームを3時間以上している児童が8.8%(県13.9%)、ゲームは県より低いものの、平日にテレビ視聴やゲームをすることに多くの時間を割いており、十分な睡眠時間がとれていない児童がいることが浮かび上がった。

<学習習慣>

授業以外で2時間以上勉強している児童5、6年生は、平日で42%(県22.9%)、土・日でも35.8%(県9.6%)いる。読書については、本を週に1回以上借りる児童は、34.2%の児童がいる。学校の授業の予習をしている児童は48.7%(県43.3%)の児童が取り組んでいる。また、授業の復習に取り組んでいる児童が61.7%(県54.9%)いる。これらのことから、スマイル学習や自主学習への取組などの成果が表れ、家庭学習の充実が進んでいると言える。

<授業での学び方>

「話し合い活動をよく行えた」と答えた児童が90.2%いる反面、「自分の考えを発表する機会があまり与えられていない」と感じる児童が14.5%いる。また、「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と感じている児童が61.7%いる。協働学習(グループ学習・全体学習)や書く活動をさらに取り入れた学習形態を通して、児童一人一人の成就感を高めながら、思考力・表現力を育成していく必要がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

<取組>

・4年生以上に学力向上タイムを設定し、B問題に取り組むグループと基本問題に取り組むグループに分け、全職員で思考力と基礎・基本の定着の向上に努める。

・国語や今年度から取り入れた算数科の校内研究で、協働学習を中心に、言語活動の充実に努める。

1 スマイル学習を中心に児童主体の協働学習を展開

算数、理科を中心にタブレットを活用したスマイル学習（予習型の協働学習）に取り組ませ、学習への興味・関心を高めると同時に知識・理解の確実な習得を目指す。また、他教科でも児童が学習の主体となるように、話し合い活動を中心とした協働学習を展開していく。更に、個人の考えをもちながらも他の人との交流を通して、考えを再構成させるなど、思考力・表現力の育成につなげていく。

2 学び方の徹底と児童の思考の流れが分かる授業づくりへの改善

西部型授業の学習過程について全職員で共通理解を行い、全学級で取り入れ、「めあて」と「まとめ」をきちんと行うことで学び方を身に付けさせていく。その学びをノート指導にも反映させ、評価を適切に行い、次の学習と学習意欲の向上に生かしていく。また、児童の思考の流れが分かる板書づくりを行っていくなどの授業の改善も図っていく。

3 言語活動の日常化を図ることによる表現力の向上

算数科や理科を中心に学習の「めあて」とそれにつながる「まとめ」、学習の再構築につながる「ふり返り」活動を児童の考えや意見を取り入れたものとしていく。自分の気持ちや考えを書かせる活動を行い、学習用語などのキーワードなどを使って書けているかを評価していくことで、知識・理解の定着と語彙力の向上を図る。また、それを日記などの家庭学習の課題(字数指定・キーワード指定・題名の工夫等)へと発展させていくことで思考力・表現力の向上にもつなげていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 学力向上研修会, 学力向上委員会の実施

夏季休業中に、全国学力調査・県学習状況調査・標準学力検査の結果分析から、本校の課題を洗い出し、改善策について話し合う研修会を実施した。今後、学力向上委員会を中心に、家庭学習の確実な実施など学習習慣の定着を目指す。また、学力向上タイムなどで取り組む補充問題や発展問題の内容の検討や、表現力育成につながる言語活動の在り方を話し合うことで、その後の指導に活かしていく。

2 学力向上タイムの実施

木曜日の7校時目に行われているクラブ・委員会のない時間を利用し、月に1～2回程度、学力向上タイム(45分)と位置づけ、級外を中心に全職員で指導を行っていく。学力調査の過去問等に触れさせ、解説等も行っていくことで、字数制限の問題にも慣れさせていく。また、市販テストの書き直しなどを担任及び級外で確実にを行うことで、学習の定着を図る。

3 家庭学習の充実

学級通信などを通して、家庭との連携を図り、家庭学習の充実を図る。また、自主学習については、より主体的な取組を促すよう、よい内容のものを学年掲示コーナーで紹介し、自主学習の質を高めていく。

【朝日小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学 現 5年	60.4 (0.97)			64.1 (0.98)			
H22 入学 現 6年	70.6 (1.04)	74.1 (1.05)	71.9 (1.11)	58.0 (0.97)	78.2 (1.05)	45.0 (1.03)	62.4 (1.02)
H27 正答率の全国比		(1.06)	(1.10)		(1.04)	(1.00)	(1.03)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

1. 学習状況調査において、
 - ・全国学習状況調査(6年)において、全教科とも全国や県の平均をほぼ同じか上回っている。
 - ・国語の話す聞く能力と、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項は、特に全国を上回っている。また、国語のB問題は、すべて全国を上回っている。しかし、書くことについては、全国平均を下回っており、特に、文章の要旨をまとめて書くことに落ち込みが見られる。
 - ・算数のA問題では、量と測定の問題が全国を上回っていた。特に時間の問題が上回っている。また、B問題では、数と計算の問題が全国を上回っている。特に、巻き尺で正三角形を作る問題と、切り上げに関する問題で、上回っている。しかし、A問題の数と計算について、全国を下回っており、特に小数の足し算・引き算が下回っている。また、B問題の、数量関係では、百分率の問題、量と測定では、面積の問題で、全国平均を下回っている。また、無回答率の高いのが課題である。
 - ・理科では、電磁石の働きを利用した振り子の問題や、メダカの観察・生物の成長に必要な養分の取り方については、全国を上回っている。しかし、実験器具の使い方について全国平均を下回っており、特に顕微鏡やメスシリンダーの使い方が下回っている。
2. 意識調査において、
 - ・読書を好きな子どもは多いが、学年相応の本を読んでいない。冊数も少ない。
 - ・全般的に家庭学習の時間が短い。
 - ・テレビやゲームの時間に費やしている傾向がある。
 - ・家で学校の宿題をしている子どもは多いが、予習・復習・自主学習をしている子どもは少ない。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 授業づくり、指導方法の改善・充実のために重点的に取り組んでいく内容

西部教育事務所の指導を受けながら、西部型授業の充実に継続して取り組む。

(1) 国語、算数共通

① 「めあて」と「まとめ」を大切にする授業の実践

- ・子どもの学びの明確化と教師の指導の焦点化を図ることを目的とする。
- ・まとめを代表の児童が発表して、今日学習したことを振り返り明確にする。
- ・「めあて」と「まとめ」がわかるノート指導を徹底する。

② 説明させる場の設定

- ・「言語活動の充実」を図るために、学び合いの中で自分の考えを発表（説明）させ、相手の考えとつなげて話し合う授業を実践していく。
- ・学び合いの基盤となる「返事」と「反応」の指導を徹底する。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

(1) 国語

- ① 書き慣れることを目的とした「視写」や「生活文(日記)」の取り組み
 - ・「子ども天声人語」(朝日小学生新聞)の書き写しノートの活用(高学年)。
 - ・定期的を書く機会を設ける(宿題の工夫)。
 - 名文の視写、生活文(日記)、テーマ作文、表現のよさを取り入れた作文。
- ② 漢字力向上のための学期末テストの実施
 - ・50問テストで90点を合格として反復練習をさせる。

(2) 算数

- ① 「算数タイム」(毎週火曜日)と「補充タイム」(水曜日)の充実
 - ー 全職員による指導体制づくり ー
 - ・「すすくテスト」の有効活用ー高学年
 - ・既習事項の振り返りー低・中学年
- ② 計算力向上のための学期末テストの実施
 - ・計算検定の練習問題に取り組みさせた後、検定を実施し、まちがいについては、補充指導をして、再度実施し90点以上をめざさせる。

(3) 家庭学習及び地域連携など

- ① 「あさひカード」を使い、家庭生活においても、基本的な学習習慣を身につけさせる。また、保護者への協力を依頼し、あさひカードの結果について情報を流す(9月、12月、3月)ことで、学家連携を図る。
- ② コミュニティ・スクールを通して、地域人材を活用した体験活動を展開し、地域との連携を充実させ、地域とともに子どもを育てていく。(各学年年間5時間以上の実施)
- ④ 読書活動を奨励し一人年間70冊以上をめざして取り組む。
- ⑤ 家庭学習の手引きを使い、時間の確保と内容の充実を図っていく

【若木小学校】

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学	62.3			74.0			
現5年	(1.00)			(1.13)			
H22 入学	80.2	78.0	73.5	64.1	80.3	40.8	68.9
現6年	(1.19)	(1.11)	(1.14)	(1.07)	(1.08)	(0.93)	(1.13)
H27 正答率の全国比		(1.11)	(1.12)		(1.07)	(0.91)	(1.13)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

1 学習状況調査の結果から

学習状況調査の結果では、算数科B問題を除いて、県や全国よりも高い数値となっており、おおむね良好な結果である。国語科においてはA問題（主として知識）とB問題（主として活用）の正答率の差が少なくどちらも県・国平均を上回っており、学習内容を理解する力と知識を活用する力がうまく結びついていると考えられる。理科においても、県・全国平均に対して高い数値となっており、理解ができていると考えられる。

しかし算数科においては、A問題とB問題の正答率の差が大きく、A問題は県・国平均を超えている。反面、B問題では県や国の平均を下回っており、既習の知識を活用しながら問題を解決する力が十分ではないということが言える。特に、正答率が低かった問題は、「平行四辺形の作図の方法に用いられている図形の約束や性質」、「比較量と割合から基準量を求める」、「見い出した考えを他の場面でも活用して発展的に考察する」などであった。活用力の向上は、今後の大きな課題である。

2 意識調査の結果から

基本的な生活習慣については、100%の児童が朝食を毎日食べている。また「決まった時間に寝る」も県に対してよくできているが、「決まった時間に起きる」では県よりもやや低かった。ゲームやテレビ視聴の時間は「4時間以上」は0%で、県と比べて少ない。

学習については、平日の家庭での学習時間は、県と大きくは変わらない。しかし、土日に塾に行っている児童の割合が低く、土日の学習時間は少なくなっている。読書については、平日の読書時間で「2時間以上」や「30分以上」の割合が高く、読書によく取り組んでいる。また、学校の図書室にもよく通っている。家庭学習では、復習的な課題に取り組むことが多く、予習的な課題について積極的に取り組む児童が県と比べてやや少ない。家庭学習の内容の工夫が必要である。

学習に対する興味関心については、国語、算数、理科とも「大切な学習であり、将来役に立つ」という意識はあるが、国語、算数で「好き」と答える児童の割合がやや少なく、課題である。

また、「失敗を恐れず、何事にも挑戦する」や「自分にはよいところがある。」について、やや県に対して低い数値であり、学校生活や家庭生活においても自己肯定感や有用感を増す方策が大切である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 「杵西型授業」を基本にしながら、主体的な問題解決学習に取り組ませる。それにより、学ぶ楽しさ、できる喜びを味わわせ、学習に対する意欲を高める。
特に次の点について重点的に取り組む。
① 「めあて」の提示 ②ノート指導・ワークシートの工夫（書く場の保障） ④話し合い活動 ⑤学習の「まとめ」
ノート指導では、図、言葉、式、文章など多様な表現方法で自分の考えをしっかりと持たせる。さらにグループや全体で考えを高め合う言語活動を充実させることで、表現力、判断力、思考力を育成する。また、学習のめあてを確実に提示し、授業の最後に「まとめ」活動を取り入れ、学習したことの定着を図る。
- 2 学習の展開や、発問・板書等の工夫をし、授業に臨む。
【国語科】・・・単元のねらいを明確にした指導。単元に設定されている言語活動を確実に実施する。
学習用語の習得と活用を図り、国語科における基礎・基本の力を身につけさせる。
【算数科】・・・「わかる」と「できる」をしっかりとつなげていく。答えを出すまでの過程を大切にする。
既習事項を活用した自力解決力を大切にし、活用力を高める。
【理科】・・・自然体験や、実験・観察などの直接体験を重視した授業を行う。また、言語活動との連携を図り、学習したことを新聞等にまとめる活動を取り入れる。
- 3 ICT 機器の効果的な利活用を通して、分かりやすい授業作りに努める。
・デジタル教科書、タブレット PC の利用率を高める。
- 4 学んだ事を活用する場を作り出し、活用力を高める。
・総合的な学習の中で、国語科や算数科で培った技能を意図的計画的に活用させる。（グラフや図表の活用、手紙、新聞、チラシ等目的に応じた文書表現を取り入れさせる。）
・パワーアップタイム・・・余剰の時間を利用し、活用力の向上に向けた練習の時間を設定する。
(4・5・6年生)

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 学習の手引きを配布し、家庭と連携を図り、家庭学習の習慣化や内容の充実を図る。
・課題について共通理解を図る。(読み、書き、計算)
・日記など書く活動の充実を図る。
・自主学習の奨励(週1回以上)
・タブレット(スマイル学習)
- 2 学習のルールについて共通理解し、学習への心構えや物構えについて全校で一貫した学業指導を行う。
(チャイムの合図。筆箱の中味、姿勢、話型、聴型)
- 3 早寝、早起き、朝ご飯など定期的にチェック、生活習慣を整えさせる。

【武内小学校】

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学	65.8			61.8			
現5年	(1.06)			(0.95)			
H22 入学	68.3	69.7	62.2	57.3	73.3	42.8	55.7
現6年	(1.01)	(0.99)	(0.96)	(0.96)	(0.98)	(0.98)	(0.91)
H27 正答率の全国比		(1.00)	(0.95)		(0.97)	(0.95)	(0.92)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○5年は、国語は県平均を上回っているが、算数は県平均を下回っている。算数においては、十分達成の児童の割合が低く、要努力の児童の割合が高い。6年は、国語 A は全国平均とほぼ同等であるが、国語 B・算数 AB・理科ともに、全国平均を下回っている。

○5年算数では、特に、提示された事象が成り立つかどうかの判断の理由を表現することに苦手さを感じている児童が多く、無解答率が高い。立方体や直方体の展開図や見取り図を読み取る力や小数の計算力にも課題が見られる。

○5年国語では、ローマ字の筆記、手紙の書き方、慣用句など授業で取り扱う時数の少ない内容の定着が十分でなく、正答率が低い。無解答率も高い。

○6年国語では、話す・聞く能力は全国平均より高いが、中心となる語や文を捉える力や、文章と図、条件とを関係づけて自分の考えを書く力に課題が見られる。

○6年算数では、割合に関する問題の理解が低い。また、5年と同じく、提示された事象が成り立つかどうかの判断の理由を表現することに苦手さを感じている児童が多く、無解答率が高い。直方体の展開図や見取り図を読み取る力や小数の計算力にも課題が見られる。

○6年理科は、実験結果から言えることは理解できているが、実験や観察の結果をもとに、視点をもって考察・分析し、文章に表現したり、結果を見通して実験を構想したりする力に課題が見られる。

○85%の児童が、学校に行くのは楽しいと感じており、授業に対しても主体的に取り組んでいる児童が多い。全体的に、生活のきまりを守り、落ち着いて勉強できている。

○ほぼ100%の児童が、朝食を毎日食べている。

○家庭で学校の宿題をしている児童は、ほぼ100%だが、宿題以外の予習・復習に取り組んでいる児童は、5年生は県平均を下回り、6年生は全国平均なみにとどまっている。家庭での学習の時間も、県、全国に比べると短い傾向にある。苦手な科目の勉強やテストで間違えた問題の勉強も、十分できていない。

○テレビやビデオ・DVDを視聴する時間は、県、全国に比べ多い。

○ほぼ100%の児童が、地域の行事に参加している。人の役に立つ人になりたいと思っている児童、地域や社会をよくするために何をすべきかをかんがえる児童も県や全国を上回っている。

○授業の中に、友達の前で自分の考えや意見を発表したり、友達の話や意見を聞いたりする機会が与えられていることにより、自分の考えを人に説明することを難しく感じている児童は、県や全国と比較すると少ない。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 授業中に、ICT 機器や民間学習塾の指導法を活用した復習の時間を設定し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。各教科において、授業の導入前や終末の5分に復習タイムを位置づける。ミニプリントやフラッシュカード、音読など、基礎的・基本的な知識の定着を図る内容に取り組む。
- 2 全ての教科において、「考えたことを図・式・数字・ことばで分かりやすく書く」「理由や根拠を明確に視点に沿って分かりやすく説明する」活動を取り入れ、思考力を養うことを意識した指導を徹底継続して行う。説明の言葉が足りなかったり省略されている場合は、更に問い返して落としてはいけない言葉を加えて説明させる習慣をつけさせる。
- 3 校内研究では講師招聘や授業研究会を設定し、協働学習（本校では「友だちタイム」）における指導方法の研修を深める。全職員共通理解のもとスマイル学習や「ICT 機器」の効果的な活用を図り、協働的に問題を解決する力の育成に重点をおいた分かりやすい授業を行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 朝の時間に全校統一して「花まるタイム」「脳トレーニング」を設定し、学習の基盤となる集中力・記憶力・言語力等の向上を図る。「花まるタイム」の内容を、学年の実態に応じて更に充実させ、集中力・記憶力・言語力だけでなく、基本的な学習内容の定着も意識し、更なる向上を目指して実践を継続する。
- 2 家庭学習の一環として週末課題を設定し、楽しく取り組みながら思考力・表現力を伸ばすことができるよう、課題の内容を工夫する。校内に、週末課題のコーナーを設置し、解説を掲示したり、上級問題を準備したりして、学習に対する意欲を高める。
- 3 上位児童に対しては、発展的な学習の場を設け、学習に対する満足感や意欲を高めながら更なる学力の向上を図る。
- 4 下位児童に対しては、少人数指導や個別の補修指導を充実させ丁寧な指導をすることで、基礎的・基本的事項の習得と定着を図る。
- 5 家庭に対して、ノーテレビ・ノーゲームデーの更なる推進や、家庭学習の時間の確保を呼びかける。スマイル学習の計画的な実施と宿題や自主的な学習の内容、量の見直しを図り、家庭学習の質と時間を向上させる。

【西川登小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学 現 5年	71.8 (1.15)			60.3 (0.92)			
H22 入学 現 6年	72.1 (1.07)	65.2 (0.93)	61.1 (0.95)	55.7 (0.93)	69.0 (0.92)	41.3 (0.95)	59.5 (0.98)
H27 正答率の全国比		(0.93)	(0.93)		(0.92)	(0.92)	(0.98)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・家庭で授業の予習について「している」「どちらかといえばしている」と答えた本校児童は54.2%（県平均40.1%）、復習を「している」「どちらかといえばしている」と答えた本校児童は83.4%（県平均52.2%）であり、家庭学習で予習、復習に取り組むことができている。
- ・学校の授業などで、「自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりすることを難しいと思いますか」という設問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童は79.2%（県平均60.2%）であり、自分の考え表現することに本校児童の課題が見られる。
- ・国語では「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題が見られる。文章を読んで、表現の工夫を読み取ったり、設問に従って一文やことばを書き抜いたりすることに課題がある。
- ・算数では「数と計算」と「図形」の領域に課題が見られる。
- ・理科では「科学的な思考・表現」が県平均より5%ほど下回っている。一方観察実験の技能は県平均より5%ほど上回った。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・授業の中で、自分の考えを持つことができるよう、考えについてまとめたり、他人に説明したりする活動を多く設定していく。
- ・理科では観察実験の技能は県平均より5%ほど上回った。これは、本校の学級規模が少人数であるが為に、観察器具に全員が触れ、実際に操作する体験が学力につながっていると考えられる。課題が見られた「科学的思考・判断」についても少人数のメリットを生かしながら、より多くの児童に発表させる、説明させる、操作させるといった体験を多く設定していくことで力を高めていきたい。
- ・きめ細かい指導をめざし、算数科においてTT指導や少人数指導をより多く設定していく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・基礎学力の向上をめざして、朝の学習（算数、漢字）をより充実させていく。
- ・保護者が来校される時期に自主学習の「ノート展」を行い、模範となるノートを紹介し、自主学習の参考にさせることで、家庭学習に充実をめざす。
- ・電子黒板やタブレット端末などのICT機器を授業の中に積極的に取り入れていくことで、児童の興味関心、学習内容の理解度を高めていきたい。

【東川登小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学 現5年	70.8 (1.14)			78.6 (1.21)			
H22 入学 現6年	76.7 (1.04)	76.9 (1.09)	69.8 (1.08)	75.1 (1.12)	75.9 (1.02)	44.3 (1.01)	59.3 (0.97)
H27 正答率の全国比		(1.10)	(1.07)		(1.01)	(0.97)	(0.98)

◎5年時は佐賀県学習状況調査，6年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率，下段()は，県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 1 基本的には，県全体が示す数値とあまり変わらないが，家庭での過ごし方に若干の差異がある。学習塾に通っている児童は少なく，テレビやゲーム，インターネットなどパソコン使用の時間も少ない傾向にある。
- 2 ほとんどの児童が学校に行くのを楽しんでいると感じており，友だちに会うのを楽しんでいる。高い自己肯定感をもち，将来の夢を持つことができている。地域に貢献し，人の気持ちが分かり，人の役に立つ大人になりたいと願っている。
- 3 5年生は，国語の「語句に関する知識」の領域が平均に届かなかった他は，国語，算数とも全ての領域において県平均を上回っている。
- 4 6年生は，国語，算数，理科とも全国平均とほぼ変わらなかったが，以下の項目で平均を下回った。また，算数と理科では，無答率が高い傾向にあった。
 - ・算数：「量と測定」と「図形」の領域。「思考・表現」の観点。
 - ・国語：「漢字の読み」の領域。
 - ・理科：「生命・地球」の領域。「思考・表現」と「知識・理解」の観点。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり，指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 全国学力・学習状況調査と標準学力検査の分析を行い，基礎学力の更なる定着や活用力を向上させるための手立て，工夫について全職員で共通理解できた。授業に話し合い活動を取り入れ，児童の対話力を向上させていくとともに，学力テストの活用問題に対応できるような学力を養うため，発問を工夫し，更に児童の表現力を高めていく。また，問に対して「必ず書く。」よう指導することを共通理解する。
- 2 話し合い活動の中では，議題にずれはないか，理由を資料から適切に選択できているか，自分の主張は条件に合っているか等を意識させることで，思考力を高める。また，適切な用語を使用させることで，語句に関する知識を高めていくようにする。その他，国語辞典を常備し，語句を正確に獲得させるようにする。
- 3 西部型授業を実施することで，1単位時間のねらいを確実に達成していく。1時間の授業の足跡が分かる板書にするよう職員の共通理解を図る。全ての授業で，「めあて」と「まとめ」が関連している板書を目指す。その板書とノートを連動させることで，思考・表現力を高める。
- 4 算数科を中心として，基礎学力向上TTや級外職員により個別支援，到達度別少人数指導等を行う。重点学年や重点単元（量と測定・図形等）を決めて実施していき，更にきめ細やかに対応していく。
- 5 ALTが授業に加わり，英語を取り入れた授業を展開することで児童の学習意欲を向上させる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 年度当初配付の「東っ子の学び (まなぶくん)」を活用し、親子読書をはじめとした読書の推進、タブレット活用、武雄式反転授業の予習部分の徹底、「早寝・早起き・朝ごはん」の奨励など、保護者を巻き込んだ家庭学習や生活習慣の定着を図るようにしている。
- 2 官民一体型学校事業の取組みの一つである「花まるタイム」を通して、基本的学習規律の定着、過去の自分に勝つ精神力や次の活動へと切り替える素早さを身につけさせる。これらの学習活動を通し、児童の学力を高めるとともに基礎的学力を更に定着させていく。また、その中で、よりよい学習習慣の定着も図っていく。一方「青空教室」では、五感を使った学びを経験させ「生きる力」を育てていくようにする。
- 3 漢字検定・計算検定を定期的に行い、定着の度合いを測り、指導に生かす。
- 4 「学力向上は学校生活の安定から」という共通認識のもと、毎週1回行っている「教育相談連絡会」で、全職員が、児童の現況や気になる児童の状況を把握し、児童の学校生活を見守る。些細なことでも一丸となり褒めながら、今後も児童の自己肯定感を高めさせていく。
- 5 宿題の出し方を工夫する。基礎・基本の定着を目的としたドリル学習に加えて、既習内容の復習、日記や作文、絵や図を用いた説明文書きなど、活用力につながる課題を精選していく。また、花まる学習会の教材「なぞペー」を活用し、思考力を養う課題も出していくようにする。

【橘小学校】

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学	60.2			65.0			
現 5 年	(0.97)			(1.00)			
H22 入学	70.2	56.7	60.1	57.6	68.0	40.3	56.4
現 6 年	(1.04)	(0.81)	(0.93)	(0.96)	(0.91)	(0.92)	(0.92)
H27 正答率の全国比		(0.81)	(0.92)		(0.90)	(0.90)	(0.93)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

・国語科では、「漢字を正しく読む、書く」「文の中における主語を捉える」「新聞を読んで、まとまりを選択したり引用されている言葉を書き抜いたりする」ことの正答率が低い。漢字の書き取りのくり返し学習や主語・述語の理解の定着、学年の内容に応じた「学習用語」の内容理解を図るなど、基礎基本的な内容の定着を図る必要がある。また、「目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら書く」「文章と図とを関連付けて、自分の考えを書く」ことも正答率が低い。国語科だけでなく、他の教科等の中でも書く活動の充実を図る必要がある。

・算数科では、数と計算の基礎基本的な内容である「単位となる小数のとらえ方」「末尾の位がそろっていない小数の減法」「異分母分数の減法」の正答率が低い。計算の意味や仕方の定着を図る必要がある。また、「概数を用いて、与えられた数を集めればよい理由を記述する」「分割された2つの図形の面積が等しくなる理由を記述する」ことや、「示された情報を基に、比較量と基準量を求める」「図形の性質を基に、周や辺の長さを求める」ことの正答率も低い。自分の考えを記述することや、与えられた情報や既習事項を活用して考えることに、今後も重点的に取り組む必要がある。

【意識調査】

・算数で「問題の解き方が分からないとき、いろいろな方法を考える」、理科で「観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考える」と回答した児童の割合が高い。今後も、めあてについての見通しをしっかりと持たせて、自力解決に向けた活動を充実させたり、グループなどでの話し合い活動の時間を確実に確保したりすることが必要である

・国語で「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる」ことの割合が県や全国平均に比べると低い。目的を明確に持たせたり、段落の意味を確実に把握させたりする必要がある。また、読書が好きな児童の割合も比較すると低い。学年に応じたお薦めの本の奨励や家庭との連携を通じて、読書を推進する必要がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 共通した学習過程の徹底

基本的な学習過程（「課題設定及びねらい」から「まとめ」）に沿った授業実践を行うことで、児童の学び方を身に付けさせる。そして、学び合いの場面では、「話す、聞く、話し合う」ことを取り入れて、高め合う学習集団を育てる。また、基本的な学習過程に沿ったノート指導を共通して行なうようにする。

2 ICTの利活用

タブレットや電子黒板などのICT機器を授業で積極的に活用し、児童の興味関心を高めたり、思考を助けたりするなど、指導方法の改善や向上に努める。また、スマイル学習の指導を通して、知識理解の確実な定着と、児童の話し合い活動を活性化させ、思考力や活用力の向上を図る。

3 校内研究の充実

言語活動の充実を目指して研究授業を実施し、自分の思いや考えを互いに伝え合い、学び合う指導方法等についての研修を深める。教科特有の用語や表現を、各教科等で適切に指導するために、言語活動系統表を作成して授業に生かす。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 朝や放課後の時間における継続的な取り組み・

週に1回、朝の時間に「計算・すくすくタイム」の時間を設定し、基礎・基本的な学習内容の定着を図る。そして、その日の放課後に「パワーアップタイム」の時間を設け、理解が不十分な児童に個別指導を行う。また、毎朝5分間、タブレットを使って、集中力を向上させるための活動（内容は計算を中心）に取り組ませる。

2 学習環境等の充実

言語能力の向上を図るために、「今月の詩」として掲示し、毎月、詩の暗唱に取り組ませる。詩の内容は、上・下学年に分けるようにする。また、登校時に、かけ算の九九、ことわざや百人一首などを校内に掲示し、日常的に触れさせる。

3 読書活動の推進

お話ボランティアの方による読み聞かせや、学年に応じたお薦めの本の紹介など、読書の推進を図り、年間一人当たりの図書の出数が100冊以上になることをめざす。

【山内東小学校】

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学 現 5 年	58.5 (0.94)			72.5 (1.11)			
H22 入学 現 6 年	70.6 (1.04)	75.2 (1.07)	64.0 (0.99)	68.8 (1.15)	80.1 (1.07)	45.4 (1.04)	60.5 (0.99)
H27 正答率の全国比		(1.07)	(0.98)		(1.07)	(1.01)	(0.99)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

【学習状況調査】

5年生

- 全体では、県正答率1に対して国語は0.94、算数は1.04である。到達基準でみると国語は「要努力」、算数は「おおむね達成」の状況にある。
- 観点別にみると国語では、全観点で県正答率を下回る。到達基準でみると「話す・聞く」「知識・理解・技能」は「おおむね達成」、「書く」「読む」については「要努力」の状況にある。算数では、全観点で県正答率を上回る。到達基準でみると「考え方」「技能」「知識・理解」については「おおむね達成」の状況にある。
- 無解答率の高い設問がある。国語では「書く」「読む」の問題、算数では数量関係の分配法則や結合法則において無解答率が高い。また、出題終盤の問題で無解答率が高い。
- 同一児童の正答率推移を観点別にみると、4年生12月調査と比較して、国語では、「知識・理解・技能」については向上し、「話す・聞く」「書く」「読む」については低下した。算数では、「考え方」については向上し、「技能」「知識・理解」については低下した。

6年生

- 全体では、全国正答率1に対して国語Aは1.07、算数Aは1.07、算数Bは1.01である。他方、国語Bは0.98、理科は0.99である。到達基準でみると、すべての教科で「おおむね達成」の状況にある。
- 観点別にみると、国語では、全観点で県正答率を上回る。到達基準でみると「話す・聞く」「知識・理解・技能」については「十分達成」、「書く」「読む」については「おおむね達成」の状況にある。算数では、全観点で県正答率を上回る。到達基準でみると「考え方」については「要努力」、「技能」については「十分達成」、「知識・理解」については「おおむね達成」の状況にある。理科では、「思考・表現」「知識・理解」で県正答率を上回り、「技能」で下回る。到達基準でみると「思考・表現」「知識・理解」については「おおむね達成」、「技能」については「要努力」の状況にある。
- 無解答率の高い設問が国語・理科で見られる。国語では問題終盤、理科では「技能」「知識・理解」の無解答率が共に高い。他方、算数では全ての問題について無解答率が低い。
- 同一児童の正答率推移を観点別にみると、5年生4月調査と比較し、国語では、「話す・聞く」「読む」「知識・理解・技能」については向上し、「書く」については低下した。算数では、「考え方」「技能」「知識・理解」について向上した。理科では、「思考・表現」「技能」については向上したが、「知識・理解」については低下した。

【意識調査】

- 学校の授業時間以外に1時間以上学習している児童が半数程度である。宿題はほとんどの児童がしている予習・復習をしている児童が40%未満である。
- 自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのが難しいと思う児童が60%以上である。
- ゲームの時間が1時間以上の児童が半数以上である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 算教科・理科を中心にした、西部型授業の「指導過程」と「ノート指導」の共通理解と共通実践を行う。【めあてとまとめ、学習の流れと板書、見開き2ページのノート指導 等】
- 2 小集団や全体での学び合い活動において自分の考えを表現できるように指導する。
 - その教科、単元ならではの学習用語や学習ことばを身に付けさせ、言語活動を充実させる。
 - 定期的に表現力テストを実施し、児童の変容を分析する。その結果を学習指導に生かす。
- 3 タブレット端末等の ICT 機器を効果的に活用し、学習意欲や関心を高める。
 - 3年生以上の算教科と理科におけるスマイル学習を計画的に実施し、学び合いの活性化を図る。
- 4 研究授業に向けて、学年グループで事前研究会を設け協働体制を構築し、成果や課題を共有する。また、スーパーティーチャーや教育事務所、教育センターから講師を招聘し、指導方法についての研修を深める。【実践と理論の整合性】
- 5 CRT及び学習状況調査の結果と分析による課題改善に全職員協力して取り組む。
 - TT指導の充実と学年の実態や単元内容に応じた指導方法の工夫をし、(少人数指導、個別指導、朝の時間の充実 等) 分かる授業づくりをする。
 - 既習事項におけるつまづきの学び直しと基礎基本の定着を図るための指導を継続する。
 - 個に応じた指導の工夫をし、中位・下位児童の学力の底上げを図る。(スモールステップの評価と称賛 等)

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 8時5分に、放送による全校『立腰タイム』で、凜とした1日のスタートを切る。立腰教育を基盤として、基本的な学習習慣と生活習慣の形成を図る。
 - 立腰教育の原点に戻り改善していく。その際、小中連携、小小連携を大事にし、山内町3校全体での取り組みができるよう協働体制をつくる。
- 2 週2回の「スキルタイム」と週1回の「すくすくテスト」を継続し、校長・教頭を含む全職員で指導にあたる。必要に応じて個別指導をし、基礎基本の定着を図る。
 - 学年の実態に応じた「スキルタイム」「すくすくテスト」の充実を図る。また、学年の実態によって、習熟度別「がんばりタイム」を設け、中位・下位児童の学力の底上げを図る。
- 3 「やまびこカード」をもとに、家庭と連携した家庭学習習慣や家庭生活習慣の定着を図る。
 - 学年の実態に応じた家庭学習習慣(宿題等)や家庭生活習慣の内容見直しと家庭との連携強化を図る。
 - 「家庭学習」「読書」の奨励をし、宿題だけでなく、探求心を持って、自主的に予習や復習、その他の学習ができる児童に育てる。
 - 常に学校、家庭、児童自身が意欲的に取り組めるものに改善していく。

【山内西小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学	48.1			54.1			
現5年	(0.77)			(0.83)			
H22 入学	65.9	72.3	59.8	59.3	72.2	40.5	56.3
現6年	(0.97)	(1.03)	(0.93)	(0.99)	(0.97)	(0.93)	(0.92)
H27 正答率の全国比		(1.03)	(0.91)		(0.96)	(0.90)	(0.93)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・5年は、国語・算数において、県平均を0.2程度下回っている。国語において、「読む」「知識・理解・技能」を身に付ける必要があり、算数においては、「考え方」「知識・理解」を身につける必要がある。
- ・6年は、国語A（主として知識）は、県全国とも0.03上回っているが、算数A（主として知識）、国語B算数B（主として活用）、理科において、わずかに県平均を下回っている。国語の「活用」「話す・聞く」、算数の「活用」「考え方」、理科の「技能」を身につける必要がある。
- ・5年は、各教科への「興味・関心・意欲」が高く、国語・理科が好きな子どもは、県平均を25%以上上回っている。
- ・6年は、各教科を勉強することの大切さには気づいているが、勉強が好きな子どもは、県平均をやや下回っている。
- ・国語・算数による少人数指導や基礎基本の習得に向けた「やる気タイム」「計算タイム」などの取り組みを行った結果、5年6年の算数において、「技能」は、平均正答率が70%と県平均並になってきている。
- ・校内研究や特色ある学校づくりにより、言語活動や伝え合う力の育成を図ったが、5年6年ともに、「話す・聞く」が県平均を下回っている。
- ・5年6年とも、「宿題」への取り組みは、県同等にできているが、「予習」「復習」「家庭学習」「自分で計画を立てて学習したり、苦手な教科の学習を自主的に行ったりする」ことが県平均をやや下回る。
- ・5年においてICTを活用した授業はわかりやすいし、楽しいと70%の児童が答えている。
- ・5年6年において読書が好きな子どもが40%程度で、県平均を10%程度下回っており、6年においては、家庭での読書の時間や図書館・図書室に足を運ぶ回数が県平均を下回っており、「朝読タイム」「音読タイム」「読み聞かせ」などにより、読書への興味・関心を高めるとともに家庭への奨励が必要である。
- ・5年6年とも家庭でのテレビの時間やゲーム、スマートフォンなどを使用する時間が多く、学習に取り組む時間が2時間以下である。
- ・5年6年とも朝食は90%以上の子どもが、毎日食べてきているが、寝る時間や起きる時間が定まっていない児童が多く、生活習慣のリズムを身に付ける必要がある。
- ・5年6年において地域の行事に参加している児童は、40%と県平均程度であるが、地域や社会で起こっている出来事に対する関心が県や全国を10%程度下回っている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

①基礎基本の習得のための工夫

・国語・算数科を中心とした習熟度別学習の充実を図り、T T及び少人数による指導方法や指導体制の工夫改善を行う。

・学ぶ意欲が高まり知識・技能を確実に習得していくような秋田県の学習形態や西部型授業を実態に応じて取り入れ、授業スタイルについて職員間の共通理解を図るとともに、共通の自己評価項目を設定し、指導方法改善に役立てる。

・5年6年ともに、「話す・聞く・書く」が県平均を下回っているので、「学び合い活動」「音読タイム」などで言語活動の充実をさらに図っていく。

②学ぶ意欲の高揚のための工夫

・ICT利活用における授業作りの工夫（電子教科書の活用，スマートボードなど電子黒板の活用，タブレット型端末の有効活用，スマイル学習，電子教材開発）を行うことにより，学習の効果を高めるとともに，学習の目標を意識させ，視点や見通しをもって学習に取り組ませる。

・学び合いの学習形態の工夫（2人で，グループで，みんなで）

・意識調査において、達成感や成就感，自己肯定感を十分もっている児童が県や全国を下回っているので，構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどにより支持的風土を高めるとともに，生き甲斐をもって学校生活を送れるように意欲を高めていく。

③望ましい学習習慣・態度の育成の工夫

・立腰教育の推進を図り，学ぶ姿勢・態度を徹底させる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

①基礎基本の習得のための工夫

・朝の時間を利用した「漢字検定」「算数検定」「すくすくテスト」「計算タイム」「朝やる気タイム」の実施により、小刻みに学習状況を把握し、放課後の時間を利用した「後やる気タイム」により、繰り返しチャレンジによる基礎学力の向上を図る。

・「朝読書」「立腰タイム」の推進による学習に向かう姿勢の高揚を図る。

・5年6年の読書への「関心・意欲・態度」を高めるとともに、文字への抵抗感をなくすために、朝読書の習慣化を図ったり、余裕時間に読書に親しませたりする。

・「音読タイム」により、文字にふれる機会をふやすとともに、「読み聞かせ」の時間を通じて、本のよさにふれさせ、図書館や図書室に足を運ぶ回数を増やす。

・「生活振り返り週間」「ノーテレビデー」による家庭での学習習慣、生活習慣の実態把握と、学校での学習習慣の改善。

・「家庭学習のてびき」「学びのすすめ」「音読タイム」を活用した言語活用能力の育成を図る。

・スマイル学習の充実による、家庭による予習学習の習慣化と学校授業での学び合いの強化と深化を図る。

・「学びのすすめ」を参考にして家庭学習の意識付けをし、自主学習の形体の共通理解や習慣化を図り、自分に応じた補充学習ができるようにするとともに、学校新聞や学級通信を活用したり、授業参観の機会を活用したりして、家庭での生活習慣の改善を図る。

・地域や社会への関心を高めるために、地域行事を紹介したり、参加を奨励したりするとともに、教師自ら地域行事に出向き、参加児童を励ます。

【北方小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学 現 5年	60.7 (0.97)			66.3 (1.02)			
H22 入学 現 6年	72.2 (1.07)	71.8 (1.01)	66.5 (1.02)	63.9 (1.07)	76.9 (1.03)	47.5 (1.08)	62.6 (1.02)
H27 正答率の全国比		(1.02)	(1.01)		(1.02)	(1.05)	(1.02)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語・算数・理科の全てにおいて、県・全国平均並み、あるいはわずかに上回る結果であった。
- ・国語Aでは、書くこと「説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する」が県・全国平均と比較してやや落ち込んでいる。
- ・算数A「図形」、理科「生命」について県・全国平均と比較してやや上回っている。
- ・「自分には良い所があると思う」が県・全国平均を上回っており、自己肯定感が高い。
- ・「今住んでいる行事に参加している」が県・全国平均を上回っており、コミュニティスクールの成果が表れている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 自分の考えを表現する授業の実践
 - ・西部型授業を基本とした授業実践の徹底
 - ・子ども同士が学び合う協働学習を取り入れた授業の実践
- 2 授業方法の転換
 - ・知識、技能の習得と活用、探求に区別した指導の徹底
 - ・毎時間の授業への集中と関心を高める工夫
- 3 教師の授業力向上のための高め合う授業づくり
 - ・教師同士のミニ研修会の実施
 - ・ICT 機器活用の研修会の実施

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 朝の時間の活用
 - ・タブレット端末を活用したシュートタイム（計算・記憶・音読等）の実施
 - ・漢字検定、計算検定、条件作文、すくすくシートを活用したステップタイムの実施
- 2 家庭学習の習慣化
 - ・学びのしおりの活用
- 3 反復学習、練習の強化
 - ・過去問題を活用した学力向上タイムの実施（4年生以上、月2回程度）

2 改善に向けた具体的な取組

- ・西部型授業スタイルの徹底を図り、めあての設定からまとめ・振り返りまでを確実に行う授業の確立をめざす。
- ・各教科ごとの特質を生かした言語活動の充実に、より一層力を入れていくことにより、「個の力」から「集団の力」へとつなげていく。
- ・アクティブラーニングの研修を深め、協働的な学びの場を作り出していく。
- ・家庭と連携した家庭学習の習慣化（学習時間の確実な確保など）を図る。
- ・生徒会が主体となった学校作りを行う。
- ・生徒指導の面で、各関係機関との連携を密にして個別に対応できるようにし、生徒が落ち着いて学習に取り組める環境を作る。